

杉並区議会議員 鈴木ちづる

発行者：鈴木ちづる事務所
 東京都杉並区井草3-1-16 大沢ビル503
 E-mail：chizurusuzuki3@gmail.com

令和6年第2回定例会 一般質問

6月6日(木)、教育のDX化と福祉人材の確保の今後の区の取り組みを問いました。

教育のDX化について

児童生徒の個別のデジタルデータの利活用は、困難やSOSの早期発見や課題改善のために必要と考えるがいかがか？

⇒データを引き継ぐことで支援体制の充実に寄与すると考えるが、課題は管理方法等多岐にわたる。他自治体の取組を参考に研究していく。

不登校状態の児童および保護者と学校との情報共有方法は？

⇒今年度より区立学校でtetoruというアプリを導入し随時情報共有を図っている。

6月になっても新生入生にタブレット端末が配布されていない。今後の対策は？

⇒早い時期での修理依頼の徹底や代替機の活用など、配布が円滑に進むよう学校や業者と連携・協力し対応していく。

福祉人材の確保について

令和6年4月の組織改正で障害者生活支援課事業者支援係が新たに設置されたが、その経緯は？

⇒福祉人材不足を鑑み、民間職員のスキルアップ等事業者支援の総合的な調整を目的に設置

大学や専門学校等との連携について、区の実取組状況は？

⇒今年度は「障害者施設の見学ツアー」を実施する。



議会の録画は
こちらのQR
コードから
ご覧になれます

【鈴木ちづる プロフィール】

- 1970年京都生まれ、同志社大学法学部法律学科卒
- 特技：アロマセラピー、筋トレ、生き物と話せる
- 障害児を含む三児の母。杉並に19年在住
- 経歴：
 - ・司法書士事務所にて、契約・相続など法律業務
 - ・高齢者グループホームの介護スタッフ（介護、傾聴）
 - ・国立大学窓口、行政の緊急支援窓口（対面業務）
 - ・杉並区子ども子育て会議委員（障害児の親として）
 - ・SNS相談カウンセラー（孤独孤立・自殺対策）として子どもたちの本音を傾聴
 - ・杉並区議会議員 <現任>

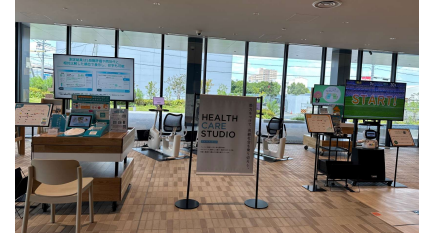
公式サイト



北大阪健康医療都市「健都」を視察

令和6年8月1日、国際級ヘルスケアのオープンイノベーション（産学連携共同研究の場）を体感できました。

Knowledge(正確な知識、知の集積)
Exercise(適度な運動)
Nutrition(適切な栄養・食事)
TOWn(まちづくり)



循環器病の予防に必要なこれら4つの頭文字（KENTO）から愛称がついた「健都」。まだ私が学生だった頃（約30年前）吹田市と摂津市の間にあるJR岸辺駅には広大な操車場がありました。

この跡地に国立循環器病研究センター、医薬基盤・国立健康・栄養研究所、市立吹田市民病院が移転し、世界モデルとなる自律成長型人材・技術を育む総合健康産業都市拠点になりました。

多くの市民がLINEアプリで「健都ヘルスケアサポーター」となり、最新の実証事業に双方向で参加しています。

みんなの声をカタチにするこの方法を杉並区の駅前再開発のまちづくりや、参加型の取り組みにも活用すべきと考えます。

岡山県総社市の福祉を視察

令和6年8月2日、障がい者1,000人雇用のノウハウを伺いました！

障がい者雇用促進と市民全体の社会福祉向上を目指し「総社市障がい者千人雇用委員会」が平成23年5月12日に発足。「千人」という数字は、身体、知的、精神障がい者のうち、一般的な就労年齢といわれる「18歳以上65歳未満」の人数が約1,200人に対して、取り組みを始めたときの就労者が180人だけだったからです。

発足当時、総社市にはB型作業所さえも無い状況でしたが、市長の熱い想いと、NPO・千人雇用センターが一体となり、6年後には目標の1,000人を達成。

「障がい者が作ったから買ってもらう、ではなくて、本当に良いものだから買ってもらう」製品を企画開発する事業所が活躍し、ゆるキャラグランプリ第3位の「チュッピー」も情報発信のお手伝いをしていました。今は新たに目標数値を1,500人として、障がい者千五百人雇用推進条例も制定されています。



そうじゃてのひらマルシェ (@soja_tenohira.marche) • Instagram

杉並区にはワークサポート杉並が就労等の支援を行なっていて、この春から企業就労している知的障がいのある私の長男も定着支援を受けています。

総社市は人口約6万9千人。杉並区は8倍以上の約57万人です。働く場（事業主）の開拓やサポート体制について、総社市の事例を研究し積極的に取り入れるよう区に要望してまいります。